

Radio On The Street
西谷文和

2026.5.20
第29号

路上のラジオ

ファンクラブニュース

発行責任者：西谷文和

連絡先：〒564-0041 大阪府吹田市泉町1-22-33

TEL 06-6170-4757

メール otayori@radiostreet.net

このニュースは募金いただいた方、講演会に参加された方に郵送しています。今後も年に4回程度発行します。

●ラジオの聞き方

スマホやパソコンで「路上のラジオ」と検索してください。YouTubeで聞けます。チャンネル登録していただきますと、毎回お知らせが来るので便利です。

2人のTACOと1人のNECO

威嚇して逃げていくタコ

TACOはみなさんご存知だろう。トランプ、オールウェイズ、チキン、アウト。つまり「勇ましく相手を威嚇するが、その直後にいつもニワトリのように逃げ出し、てしまう」大統領を揶揄する言葉である。これは中国に対して勇ましい発言をしたものの、レアアースが入らない、中国からの観光客激減という事態になって内心では慌てながらも、謝罪も撤回もせず、知らぬふりを決め込む高市首相にも当てはまる。どちらも「Tで始まるタコ」なのだ。

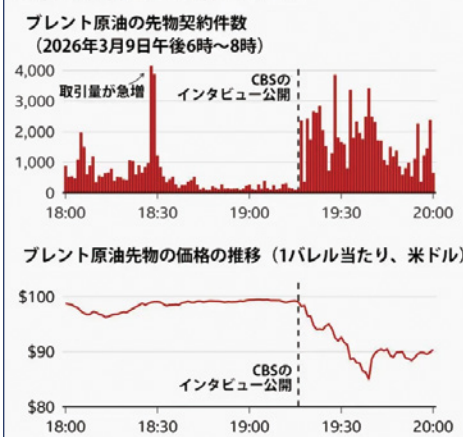
人殺しをやめないネコ

NECOは私の創作である。「ネタニヤフ、エンドレス、コンフリクト、オン」。ガザに続いてレバノンそしてイランと、ずっと戦争を続けているイスラエルの首相を揶揄したものだ。世界と日本はこの2人のタコと1人のネコに振り回されている。

コロコロ変わる発言

まず「アメリカのタコ」について

米CBSのインタビュー公開後の値下がり前に原油の取引量が急増していた



トランプ発言の直前 (19時15分) から原油が急落

で。今年2月28日に最高指導者ハメネイ師の殺害という形でイラン戦争を始めたトランプは、当初「戦争は96時間(4日)で終わる」と豪語したものの、すぐに「4~5週間はかかる」と軌道修正。その後4月に「イランを石器時代に戻してやる」と脅迫したかと思えば、5月に入ると「停戦に合意する」。

取引で巨万の富を積み上げているファミリーの存在、がある。具体的には3月9日の米CBSインタビュー。インタビューが公開された19時15分頃にトランプは「イラン攻撃はほぼ終結」と発言。これをきっかけに原油先物が、1バレル119ドルから81ドルに急落。逆に株式は急騰した。

身内はインサイダーで大儲け

大手メディアではあまり報道されていないが、巨大なインサイダー

図の通り、この発言の前後で原油先物の取引量が急増している。仮にトランプが何を言うのか、事前に知っている人々がいたとして、彼が「イラン戦争はもう終わり」と言う20分前に、原油を空売り、株式を爆買いしておけば、一瞬にして巨額の富を得ることができる。逆にトランプが「イランを石器時代に」と発言する30分前に、原油の爆買い、株式の空売りを仕掛けていれば、「行つて来い」の大儲け。

おそらく「事前に何を言うのか?」を知っている人物たちがいる。それがトランプファミリーである。

なぜ娘婿が交渉団に?

イラン戦争の交渉団にジャレツ



クシュナーはずっと交渉メンバーである

ド・クシュナーが入っている。この人物はイバンカの夫、つまりトランプの娘婿でユダヤ系アメリカ人。ちなみにクシュナー家は長年ネタニヤフとの付き合いが深く、ネタニヤフがアメリカに来た時はクシュナー家に宿泊するという間柄でもある。

表向きは「トランプから絶大な信頼を得て、20年の中東アラブ諸国とイスラエルの和平、つまりアブラハム合意を取りまとめた実績があり、ビジネス的アプローチもできる稀有な人物」なので、今回のイラン・アメリカ核交渉の一員に入っていると説明されている。

民間人なので資金の流れが分からない

しかしクシュナーは国務長官でも、合衆国の政府高官でもなんでもなく、単なる私人。それも単なる民間人ではなく、「アフィニティ・パートナーズ」という投資



末の息子は19歳で億万長者に

会社の経営者なのだ。このアフィニティ社にはサウジやUAEから巨額の投資が流れ込んでいて、その資産はなんと約1兆円（9890億円）に膨らんでいる。もしこれが利益相反として訴追されなければ、全ての株や先物取引は「やったもの勝ち」レベルになつてしまう。トランプ政権一期目では、大統領上級顧問として入閣していたクシュナー。なぜ二期目は私人なのか？

おそらく国務長官や高級官僚としてトランプ政権に入ると、身辺調査、資金の流れの透明化に迫られてしまう。単なる民間人として交渉団に入り、イランやイスラエルの思惑を義父に伝えて、義父が何か言う前に市場で荒稼ぎをする。クシュナーの投資会社はサウジやUAE王族の資金が流れ込んでいるのも、アブラハム合意以来の「金持ちサロン」が、戦争を金儲けのネタとして扱っていると考える

られる。

暗号資産で大儲けする息子たち

クシュナーだけではない、トランプの長男、次男は暗号資産、アメリカビットコインでも荒稼ぎをしている。メラニアとの間に末息子のバロン・トランプがいるが、彼は19歳にして暗号資産で58億円の資産家になっている。ちなみに高市首相は日米首脳会談の夕食会で、この息子を「イケメン。間違いなく両親に似た」と褒めあげて、トランプがニカッと笑う、という大変恥ずかしい奴隷ぶりを発揮している。

部下はベネズエラで賭け

一国のトップとファミリイが詐欺師のような汚いビジネスをしているので、部下もまた同じことをする。今年1月のベネズエラ軍事作戦で、マドゥーロ大統領が拉致されたが、この事件の前に「米軍がベネズエラに侵攻するか」「マドゥーロが失脚するか」という賭けマーケットがあり、米軍特殊部隊の曹長だったギャノン・バンダイクが、いずれもイエスに賭けて、約6500万円を騙し取った事件が訴追されている。

下の者（バンダイク）は堀の中に入るが、上の者（一族）はのう

「マドゥーロ氏失脚」に賭け利益40万ドル、拘束作戦関与の米兵起訴

Jasper Ward, Luc Cohen

2026年4月24日 午前 10:19 GMT+9 2026年4月24日更新



特殊部隊の兵士は「マドゥーロ失脚」に賭けていた

のうと表舞台で詐欺を働いているわけだ。

日本のタコ周辺も仮想通貨

「日本のタコ」は、4月21日に自衛隊の戦車が暴発して3名の自衛官が亡くなりになったその日に公邸で宴会をしている。トランプに抱きつき、絶叫ダンスを披露したタコにもその周囲に実態のない仮想通貨ビジネスに手を染める輩たちがいて、サナエトークンを編み出したが、すぐに暴落。アメリカでも妻の「メラニアコイン」が暴落したが、この手の輩たちが日米のタコ周辺に生息している。

ネコは差別で人殺し

最後に「イスラエルのネコ」について。間違いなくこのネコが一番タチが悪い。ガザで罪なき人々を7万人以上も殺害したのちに、

レバノンで同じことを繰り返す。さらにはシリア、イエメンに続き、イランで大規模な無差別殺人を続行中だ。ネタニヤフのエンドレスWARの特徴は、「アラブ人を2級市民、動物と同じ」と考えていること。先日アメリカのタコが「イラン人は動物と同じ」と言い放ったが、それより2年以上前につまり23年10月7日のガザ戦争初日に、ネタニヤフの部下で国防大臣だったガラントが「ガザのアラブ人は動物と同じ、せん滅せよ」と発言。タコとネコはよく似ている。

背後にいろのがカジノ王

この2人を結びつけたのがユダヤ系アメリカ人のシェルドン・アデルソン。ラスベガスのカジノ王で、第1次トランプ政権が誕生する際に、巨額の献金をして、共和党を「トランプ党」にした張本人だ。シェルドンはすでに亡くなっている、後を継いだのが妻のミリアム・アデルソン。彼女もやはり第2次トランプ政権を多額の献金で支えていて、ネタニヤフの大口献金者。カジノと戦争は人の不幸の上に成り立つ商売で、トランプとネタニヤフを結びつけているのがカジノ王であることは象徴的だ。問題は、日本がタコによって急

速にイスラエル化していることだ。安倍政権から続く「教育とメディアの支配」があり、先の総選挙で多くの人々が極右のプロパガンダに騙されてしまった、高市自民に投票してしまった。

引き続きタブーなしで

ありがたいことに学校や各地の9条の会、生協や労働組合などから講演の依頼を受けることが多い。学校関係は、ほぼ間違いなく平和人権の予算で組まれた講座なので、イラン戦争やパレスチナ、アフガンの問題を語ればいいのだと判断できるが、平和団体や労組からの依頼は「どちらのテーマで？万博やカジノ、維新の不祥事ですか？それともイラン戦争？」(笑)と確認しなければならぬ。多くの場合「その両方をお願いします」ということになり、日程を調整してお引き受けすることになっている。

よく考えてみればこの2つのテーマはつながっている。「今だけ、金だけ、自分だけ」。トランプはエプスタイン文書という超弩級のスキャンダルを消すため、ベネエ

解決方法は「9条の輸出」だ

日本をタコから救う方法。それはペンライト集会や憲法集会で示されたように、「主権者として声を上げること」だ。戦争を止める

のは外交、話し合いしかない。日本の平和憲法の重要性を、私たちが再認識して、憲法9条の精神を輸出すべき時が来ている。

てしまったので、高市支持が高止まりしている。

先日元文科事務次官の前川喜平さんが「高市早苗こそ駆除すべき害獣レベル」とポストされた。私は、これは正論で、最高権力者に対して、これくらいの批判をしないと暴走は止められないと思う。もともとこの「害獣駆除」はタコの第一秘書が、野党批判のデマ動画を垂れ流した松井氏に「立民の害獣をたくさん駆除することができた」というお礼ポストに反応したものの。案の定、この発言はネット上で炎上している。しかしそのネットを金で支配しているのが、他でもない高市陣営だ。おそらく裏から手を回して発言を封じてしまいたいのだろう。

チャップリンの映画「独裁者」は、ヒトラーを激怒させた。映画には全く及ばないが、このラジオでも引き続きタブーなしで、独裁者を少しは怒らせて、あわてさせたいな、と考えている。

編集長より

私の家には、父が遺した家具調の木製スピーカーがあつて、いつかはまた鳴らしたいと思つていたところ、壊れたままだったレコードプレイヤーを新調して、42年ぶりにそのスピーカーでレコードを聴きました。

何というあたたかな音色なのでしょう。現代的な尖ったデジタルサウンドに慣れきつていた私にとって、大きな木のスピーカーが

震わすアナログな音には、懐かしさとともに心癒される思いでした。

今や人間の知覚の遥か上を行く技術で、録音でありながら原音（生）に近い音が再現できる時代です。しかしこの時、古い木箱が奏でた音は、どんなハイレゾより私には美しく響きました。在りし日の父の面影を感じながら、1分間に33と1/3回転する想い出。正確さ以上に大切なものが確かにあつて、

その振れ幅の中で人は息をしているのだと気づきます。

今、人工知能が社会のしくみを大きく変えようとしています。人殺しの道具にさえ知能を与えてしまった人間はあまりにも愚かで、その正確で冷徹な脅威の前で、私たちは無力さを感じます。けれど、そんな時代にあつて、生身の人間にしかないあたたかな感性に希望を託したい。国会前ペンライトデ

モノの小さな光や、平和を諦めない丁寧な外交。それら一つひとつの人間らしい営みが、この冷えた世界を持ちこたえさせる灯火になると信じています。これから「路上のラジオ」をどうぞよろしく願ひいたします。

（制作担当・山本 素）

2025年収入の部（単位：円）	
前年度からの繰り越し	1,271,959
募金	6,443,800
合計	7,715,759
2025年支出の部	
HP制作・管理	239,400
事務所家賃	360,000
番組制作費	6,301,464
合計	6,900,864
来年度へ繰り越し	
814,895	
2025年度会計報告	
昨年度もたくさんのご支援をありがとうございました。19年5月にスタートして丸7年が経過しました。当番組はスポンサーなし、YOU TUBEの広告収入なし、全てはみなさまからのご寄付で成り立っております。昨年もいわゆる自転車操業で、募金収入約644万円をいただきながら製作費に約690万円を費やしてしまったため、開始以来初めての単年度赤字になりました。今年度も無駄のない効率的な運営に努めながら、内容の充実を目指して週1回の放送を続ける予定です。引き続きのご支援をよろしく願ひいたします。	

編集後記

「なぜ中東で戦争が終わらないのか」を一気に書き上げて、かもがわ出版から上梓しました。イスラエルとパレスチナ双方を取材して、現地の声を拾っていくことが重要だと考えていたのですが、予想より早くイラン戦争が勃発したため、テヘランに駐在していた毎日新聞専門記者の鶴塚健さんとの対談を追加。気合いを入れて書いたのが、第4章「平和と和解を求めて」。停戦合意だけでは戦争が終わったとはいえません。それは仮の平和。互いに許し合って和解することなしには、また次の戦争が始まってしまうのです。ハマスに両親を殺されたユダヤ人のマオズは「過去は許さねばならない。現在も認めよう。しかし未来は決して許してはいけない」と述べました。彼はイスラエル兵に兄を殺されたアラブ人のアジーズと一緒に「許し合うこと」を訴えています。彼らを日本に呼んで一緒にペンライトを振りたいな、と考えています。